

岡崎むかし館

くし こうがい かんざし 櫛・笄・簪

ここで紹介する櫛、笄、簪は「日本髪」を結う時に使用した道具です。「日本髪」とは日本女性の伝統的な髪型の総称で、特に明治期以降に、欧米の文化の影響を受けた髪型を「洋髪」といったことに対して使われた呼称です。

柄が細くとがった見なれない櫛は、前髪・鬢・髻・髻で構成される「日本髪」独特な髪型を整えるために用いられます。用途に応じて、大きささまざまな形があり、櫛目も粗いもの細かいものがあります。螺鈿などの細工が施された櫛は、髪を梳くだけでなく、笄や簪とともに髪飾りとしても使用します。「日本髪」において髪飾りは全体のバランスを整えるのに重要な役割をもち、髻甲や象牙、漆や金工など素材や技法を駆使して作られたものも多く見られます。

昭和の初め(1935年)頃は、まだ着物を普段着る女性も多く、日本髪的一种である「丸髻」を結っている人もいました。「丸髻」は既婚女性の髪型とされ、楕円形の型を髻の中に入れて丸形の髻に結びあげます。年齢の若い人は髻形を大きくし、年配は小さく地味にしたそうです。

このように髪型は性別、年齢、職業など社会的な環境を象徴し、国や地域、またその時代による特色を反映するもので、それに伴い髪を結う道具などにもその特徴が表れます。そこから、当時の人々のくらしを探ってみるのも面白いと思います。



櫛/岡崎むかし館蔵



笄・簪/岡崎むかし館蔵